

対話文読解 No.1(文化祭の相談)

L1 標準

Class _____ No. _____ Name _____

レベル:L1(都立共通・神奈川の共通問題レベル)

目標時間:18分

満点:100点(自己採点)

次の会話文は、中学生のコウタ(Kota)と、オーストラリアからの留学生エマ(Emma)、佐藤先生(Ms. Sato)のものです。読んで、あとの各問に答えなさい。(①)～(④)に入るものは設問で選びます。

Kota: Our school festival is coming soon. Our class will have an event in our classroom, but we haven't decided what to do yet.

Emma: In Australia, we don't have a school festival like this.(①)

Kota: Really? Then let's make it a great memory for you. Do you have any ideas?

Emma: How about a quiz room? We can make quizzes about our town and school.

Kota: Sounds fun, but Class 3 did a quiz room last year. I hear some classes do it every year.

Emma: I see.(②)

Kota: Right. Hmm... Emma, you said you were surprised at Japanese school life. What surprised you?

Emma: A lot of things! Cleaning time, school lunch, and club activities. My friends in Australia always ask me about my school days in Japan.

Kota: Wait — that's it! How about a "Japanese School Experience" room? Visitors can try cleaning with a broom, wear a school uniform, and try easy kanji quizzes.

Emma: That's a wonderful idea! Families and little children will enjoy it. And I can see our school life with new eyes, too.

Kota: Let's ask Ms. Sato about our plan.

— After school, they talk with Ms. Sato in the teachers' room. —

Ms. Sato: A school experience room? That's new. But do you have time to get ready? The festival is in two weeks.

Kota: (③) We will use lunch time on Monday and Thursday, and after school on Friday.

Ms. Sato: All right. Then make a list of the things you(④) and show it to me tomorrow.

Emma: Thank you, Ms. Sato! Kota, let's tell our classmates about the plan this afternoon.

Kota: Yes! If everyone helps, we can make the best room in the school.

Emma: I'll take photos on the festival day and send them to my friends in Australia. They will be surprised to see me cleaning with a big smile.

[注] school festival 文化祭 / memory 思い出 / broom ほうき / uniform 制服 / get ready 準備する / list リスト

対話文読解 No.1(文化祭の相談) **L1 標準**

設問 本文の内容について、最も適切なものをア～エから1つずつ選ぼう。

問1(15点) (①)に入る最も適切なものはどれか。 ア So I will not join the festival. イ So I have seen it many times before. ウ So I'm really looking forward to it. エ So I don't like school events.	()
問2(15点) (②)に入る最も適切なものはどれか。 ア Then we need something different. イ Then a quiz room is the best choice. ウ Then let's ask Class 3 to make quizzes for us. エ Then we should not have an event this year.	()
問3(15点) (③)に入る最も適切なものはどれか。 ア I'm sorry, but we can't get ready in time. イ We will start thinking about the plan next month. ウ We don't need any preparation for it. エ Don't worry. We have already made a plan for the two weeks.	()
問4(15点) (④)に入る最も適切な語はどれか。 ア forget イ need ウ break エ sell	()
問5(20点) 下線部 that's it! と言ったとき、コウタが思いついたことに最も近いものはどれか。 ア エマと一緒に図書室で勉強すること イ クイズを50問作ること ウ 「日本の学校体験」の部屋を作ること エ 文化祭を延期すること	()
問6(20点) 会話の内容と合っているものはどれか。 ア エマは文化祭の日に写真をとって、オーストラリアの友達に送るつもりだ。 イ 3組は今年、クイズの部屋をする予定だ。 ウ 文化祭は1か月後に開かれる。 エ 佐藤先生は2人の計画に反対した。	()

とき終わったら かかった時間(分 秒)→ 次のページの解説で自己採点 → 得点(/100点) まちがえ
た問題こそ宝。解説の「誤答の切り方」まで読むと、次の1枚で点が変わる。

解答一覧(まず自己採点)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	得点
ウ	ア	エ	イ	ウ	ア	／100

問1 正解 **ウ**(15点) | 適文補充は「直前への反応+直後への橋」の両側チェック

根拠 直前＝「オーストラリアにはこういう文化祭がない」。直後でコウタが Then let’s make it a great memory **for you**(じゃあ君のために良い思い出にしよう)と返す――エマが楽しみにしているからこそ出る言葉。「ないから→楽しみ」＝ウ。

誤答の切り方

ア	「参加しない」なら、直後の「君のために思い出を」につながらない。
イ	「何度も見た」は「オーストラリアにはない」と矛盾。
ウ	前(ないから初めて)にも後(思い出にしよう)にも橋がかかる唯一の文。
エ	「学校行事が嫌い」では、このあと張り切って案を出す姿と合わない。

 **この形式のコツ** 適文補充は空所の前だけで選ばない。①直前のセリフへの自然な反応か ②直後のセリフがその文への自然な返しか――両側を確かめる。片側しか合わない選択肢がワナになる。

問2 正解 **ア**(15点) | Then は「直前の情報を受けた結論」の目印

根拠 直前＝「クイズの部屋は去年3組がやったし、毎年やるクラスもある」。それを受けた結論＝「じゃあ、何かちがうものが必要だね」。直後のコウタの Right.(そのとおり)→新しい案を探す流れにもつながる。

誤答の切り方

ア	「毎年ある→ちがうものを」――情報と結論が正しくつながる。
イ	「毎年ある」と聞いた直後に「クイズが最良」は逆走。
ウ	3組に作ってもらう話は流れにない。
エ	「やめよう」は極端。直後も前向きに案を探している。

 **この形式のコツ** Then / So で始まる選択肢は、直前の情報から正しく導けるかで判定する。情報→結論の矢印が逆向き・飛びすぎの選択肢を切る。

問3 正解 **エ**(15点) | 質問への応答は「答え＋その証拠」のセットで選ぶ

根拠 直前＝先生の心配「準備の時間はあるの？ 2週間しかないよ」。直後にコウタは「月曜と木曜の昼休み、金曜の放課後を使います」と具体的な計画を続けている——計画がすでにある人の言葉＝エ。

誤答の切り方

ア	「間に合いません」なら、直後の具体的な計画と矛盾する。
イ	「来月から考える」——文化祭は2週間後。時間の設定と合わない。
ウ	「準備はいらない」——直後に準備の計画を話しているので矛盾。
エ	「心配いりません、もう計画があります」→直後の具体案が証拠になる。

 この形式のコツ 先生や大人の「心配の質問」への応答は、直後に続く具体的な内容が答えを証明する形になっている。空所の直後まで読んでから決める——応答問題の鉄則。

問4 正解 **イ**(15点) | 適語補充は「その文の目的」から決める

根拠 make a list of the things you(④)＝準備のために「必要な物」のリストを作って明日見せなさい、という先生の指示。準備の文脈で自然なのは need(必要とする)だけ。

誤答の切り方

ア	forget(忘れる)——「忘れる物のリスト」は準備の指示として不自然。
イ	need——「必要な物のリストを作る」。準備の流れそのもの。
ウ	break(こわす)は意味が通らない。
エ	sell(売る)も文化祭の準備と無関係。

 この形式のコツ 適語問題は、空所の文が会話の中で何のための文か(指示・お願い・感想)を先につかむ。「準備の指示」なら準備に関係する語しか入らない——場面が語を選ぶ。

問5 正解 ウ(20点) | That's it!(それだ!)は直後の提案が中身

根拠 that's it! の直後に How about a “Japanese School Experience” room? (「日本の学校体験」の部屋はどう?) と、思いついた中身がそのまま続く。エマの「外国の友達が日本の学校生活を知りたがる」という話がヒントになった流れ。

誤答の切り方

ア	図書室の話は出てこない。
イ	クイズは「毎年ある」と却下された案。
ウ	直後の提案そのまま。ヒント(エマの話)→ひらめき→提案、の流れも一直線。
エ	延期の話はどこにもない。

🔑 この形式のコツ That's it! / I have an idea! のような「ひらめきのせりふ」は、直後の文に中身が来る。指示語の「直前ルール」と逆向きなので注意——ひらめきは前ではなく後ろを見る。

問6 正解 ア(20点) | 対話の内容一致は「誰が言ったか」までセットで照合

根拠 エマの最後のせりふ I'll take photos on the festival day and send them to my friends in Australia. と一致。

誤答の切り方

ア	エマの最終セリフと一致。
イ	3組がやったのは「去年」。時のすり替え。
ウ	先生のせりふは The festival is in two weeks. (2週間後)。
エ	先生は All right. (いいでしょう) と認め、リストを持ってくるよう指示した——反対していない。

🔑 この形式のコツ 対話文の内容一致は「時(去年/今年)」「人(誰のせりふか)」のすり替えが2大ワナ。選択肢の主語と時を、本文のせりふの主と時に重ねて確かめる。

会話の設計図(流れメモ)——復習は「場面の流れ」を自分の言葉で言い直すのが最短

①	課題＝文化祭の出し物が決まっていない(エマは初めての文化祭)
②	案1＝クイズの部屋→「毎年ある」で却下。ちがうものが必要
③	ひらめき＝エマの「外国の友達が日本の学校生活を知りたがる」→学校体験の部屋
④	先生に相談＝2週間の準備計画を示してOKをもらう(必要な物のリストが宿題)
⑤	締め＝クラスに提案へ。エマは当日の写真を友達に送るつもり

もう一段のぼる 適文補充の「両側チェック」は、どの対話文でも同じ武器になる。No.2(職場体験の相談)では、質問→答えの応答パターンがさらに増える——Then / So / 疑問文への返しに印をつけながら読もう。

先生向け・運用ノート チャレンジ棚・行事前の帯にも(会話約360語。計30分)。役割音読(3人組)→設問、の順にすると適文の「両側チェック」が体感できる。配点は問1～4各15点・問5～6各20点。